

出張報告

報告日 令和5年11月15日

会派名	暮らしと笑顔
報告者氏名	池野里美
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用務	地方議会セミナー（株式会社 廣瀬行政研究所）受講
日時	R5/11/9(木) 10:00 ~ R5/11/9(木) 17:00
場所 (会場)	オンライン参加
調査項目等	研修会受講
概要	『戦略的な質問手法を考える～具体的な作成方法とともに～』受講 10:00～13:00 「戦略的一般質問のススメ」 講師：前尼崎市長、■■■■ 14:00～17:00 「実現につながる一般質問の作り方」 講師：前兵庫県議会議員・元伊丹市議会議員、■■■■ ※別紙、資料添付。
所感等	【午前の部】 講師の方が、ひとり会派で県議を2期された後に、無所属市民派市長として3期務められた方だったこともあり、同じく会派に属していない議員としてとても参考になり勇気づけられる内容だった。講義を受け改めて思ったのが、地方議会は国会と異なり、二代表制であり、地方議会に与野党はないという事。議員も市長もそれぞれ選挙で市民より選ばれ、同じだけの重みとやりがいがある。県議・市長を経験した講師だからこそ、首長と議会は、健全な緊張感と建設的な議論が必要だという言葉がとても響いたし、そういう議会であるべきだと思った。また、議会というのは、支持者、期数、年齢、属性が違う多様な議員がいるからこそ力を発揮する。議員同士が活発に議論する事に意味があるので、私も意見をしっかり述べられるよう、引き続き調査研究に励み切磋琢磨していけるよう頑張ろうと改めて思った。 一般質問は、自分にしかできない強みを生かし、自分が最もよく勉強したことを聴く。知らないことは事前に調べ、地域の人からの声も聞き取りをしておく。戦略と獲得目標を明確にし、すれ違い答弁にならないようにねらいを明確に伝える。今まで二回一般質問をさせて頂いたが、自分のねらいを明確に伝えられていない部分があったので、さらに勉強しよりよい街になるために質問の機会を活かしていきたい。

【午後の部】

元アナウンサーの経歴を持つ講師で、相手に伝わる話し方のコツも教えて頂いた。また、市議3期で議長も2年され、その間に出産もし子育てもしていた女性議員という点でも、とても共感できる講義だった。

まず、一般質問では何を質問しようかととても悩むが、ネタのヒントはあちこちにあるということ具体的な事例を交えて伺った。そして、ネタが決まれば情報収集。現地調査・ヒアリング、国や県の状況、先進自治体・近隣自治体の状況をインターネットで検索など、とにかくたくさんの資料を集めて、実現につながるようにする。そして、プレゼンテーションで企画を通すつもりで、ロジックを組み立てる。また、当局との打ち合わせにおいては、一緒に考えながら落としどころを探っていく。不必要に対立するのではなく、ともに課題解決を進める同士として、一緒に考える姿勢が大切。

また原稿を読むのではなく、話しかけるようにし、話しかける相手を想定することが大切。ちなみに、ニュース原稿は中学生が理解できるように作成するのが基本との事。

今後は、質問を平素から当局と課題を共有し、早い段階からディスカッションできるよう心掛け、課題解決のために一緒に考えて行けるよう努力したい。また、議場で聞いている誰もが理解しやすいような言葉を選んだり、質問は1回で終わらせず、長いスパンで取組、継続して質問したり、質問後も動向をチェックするなど、実現するまで力を尽くしていきたいと思った。